

上村司日本国政府代表（中東和平担当特使）によるステートメント  
二国家解決実施に係るハイレベル会合  
（2025年7月29日、於：ニューヨーク）

本ハイレベル会合を主導した仏及びサウジアラビアに、心からの謝意を表明する。

我々は、信頼の置けるパートナーであるノルウェーと分科会の共同議長を務め、二国家解決の実現に向けた努力の一環として、パレスチナの経済的自立性を強化するための具体的措置に係る必要な議論を行った。

現在のガザ住民は、深刻な飢餓と栄養失調の危機に直面している。21ヶ月間にも及ぶ戦闘により、無辜の市民やUNRWAを始めとする援助関係者を含む数多くの命が失われたことは、甚だ遺憾である。

人道支援を政治的・軍事的目標と結びつけることは許されず、国連及び人道支援機関にとって、独立かつ中立的に活動できる環境が不可欠である。

この点、UNRWAは、中東地域全域におけるパレスチナ難民への支援において、必要不可欠な役割を果たしている点を改めて強調する。

我々はハマスに対し、残るすべての人質を即時かつ無条件に解放するよう、改めて強く求める。

同時に、日本は、ガザの再占領や西岸における入植活動の拡大を含む二国家解決の実現に逆行する動きには明確に反対する。

本会合のモメンタムを生かし、全ての当事者が、軍事的手段によらず、ガザ停戦を復活させ、和平プロセスの再開に向けて誠実に取り組むことが急務である。

日本は、独立国家樹立に向けたパレスチナ人の熱意を完全に理解し、引き続き、様々な形で、パレスチナの努力を支援していく決意である。

その上で、我が国は、一貫して二国家解決を支持してきたし、昨年 of 安保理任期中、パレスチナの国連加盟申請にかかる決議案にも賛成票を投じた。

今回のハイレベル会議の成果も踏まえ、和平の進展を後押しする観点から、パレスチナの国家承認について、その適切な時期も含め総合的な検討を行っていく。

（了）